

〈学術研究集会傍聴記〉

第27回日本運動生理学会大会傍聴記

中野 大輝*

Daiki NAKANO*

第27回日本運動生理学会大会が、2019年8月23日から24日まで広島大学で開催された。本大会のテーマは「運動生理学の原点から未来を展望する」であった。本学会を主催する日本運動生理学会は、「運動・スポーツの生理学に関する専門的、学際的研究の発展を図るとともに会員相互の連絡と関連諸機関との協力を保ち、広く知識の交流を求めると」を目的としている。ここでは、私が本大会に参加して学んだことを中心に記載する。

1日目は「筋肥大刺激がミトコンドリア分裂因子の細胞内局在に与える影響」という演題で、自分自身の口頭発表を行った。発表後の質疑応答では、筋量とミトコンドリアの関連についての関心が年々高まっている影響から、多くの研究者の方から質問をいただくことができた。また、私の研究内容が今後どのように発展するのかというような、本大会のテーマにもある「未来を展望」に関する質問を受けた。私の研究内容はメカニズムを追求することに主眼が置かれているが、本大会に参加して、その研究が未来にどのようにつながって行くのかについてもアイデアを共有することを求められていると感じた。

同じセッションでは私の他に、ミトコンドリアに着目した研究が1題あり、その研究内容も筋量との関連に関するものであった。発表内容や私がこれまで疑問に思っていたことについて、同じ研究分野の発表者とディスカッションすることができ、大変

有意義な時間を過ごすことができた。骨格筋におけるミトコンドリア品質管理能力についての研究は、近年国際的に活発に行われており、今回の大会でも発表されたことから、私が着目している研究分野が日本国内においても注目されていることを再認識した。その他、低酸素環境や暑熱環境における代謝応答に関する講演が行われた。東京オリンピックが暑熱環境で実施される懸念があり、それに適応するためのアプローチに関する内容が多かった。社会が求めている研究を実施することの重要性を感じた。

2日目は口頭発表およびシンポジウムを聴講した。口頭発表は、ヒトを対象とした研究から遺伝子操作されたマウスを用いた実験まで、幅広い研究内容であった。また、1日目と同様に、暑熱環境をキーワードになされている研究もあった。その他、筋疲労に関するシンポジウムに参加した。シンポジウムからは、運動中や運動後の筋疲労に関する新たな知見が発表された。また、筋疲労に関する測定方法も紹介されており、どのような要因で筋疲労が発生し、早期回復を狙うことができるかなどに関する研究に応用できると感じた。

このように、私にとって今回の大会参加は収穫が多く、有意義なものであった。社会に求められている研究はどのようなものなのかということに頭を置き、今後の研究活動の糧にしていきたい。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程3年
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University